



# Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報 第37号 2013年12月

NBSA: <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主な内容: 定例活動記録/海外支援を考える/ネパールでの狂犬病ワクチン製造体験記/

制憲議会選挙の経過と結果/私の好きな街パタン/事務局だよりとホームページのご案内



謹賀新年 あけまして おめでとうございます

来春も皆様方のご多幸を お祈りいたします

ネパールの視覚障害者を支える会

会長 オム プラカス バンジャデ

現地コーディネータ 渥美 資子

写真 長谷川 尚司氏

## 7月の定例活動報告

### オーディオライブラリ事業

小説や大学レベルの教科書を読み上げ、視力に障がいのある人の学習の手助けをする事業です。もちろん学生だけではなく、一般的な小説なども読み上げてCDを作成し、多くの視力に障がいのある人々に聞いてもらっています。学校の教材もニーズが高いのですが、やはり感動してもらえるのは小説。「何度も聞きました」と言ってくれる人の言葉を聞くと、大いに張り合いを感じます。最近CD化した小説は、ネパールの歴代政治家BPコイララの伝記小説 釜戸の燈 中国は負けた カルナ・サキヤ自叙伝など。実は、私自身読んだことのない小説ばかりですが、いかにも学生さんが好きそうなタイトルですね。

### 点字マガジンタッチの編集

NBSAの二本柱点字による情報誌タッチは、現在ネパール語のタイピストが不在で発行できません。高度な技術を要するため、新しく人材を開発するのに一苦労しています。

## 8月の定例活動報告

### オーディオライブラリ事業

ある女性の生涯を綴った小説と大学レベルの教材、計2冊を作成しました。

### 点字マガジンの作成続行

なぜか遅れをとってしまう点字マガジンですが、35号がやっと完成。すかさず郵便局に持ち込みました。全部数、田舎や僻地にも到着するよう祈りましょう。

### アメリカ在住のネパール人女性、ブナさん訪ネ。

6月から7月にかけて、NBSAはブナさんと共に多彩なイベントをサポートし、大変好評を得ました。イベントの企画や移動と運営など、NBSAのスタッフにはお手のもの。この素晴らしいイベントの主催者のブナさんは、視覚障がい者の教育に大変に熱心な方。驚いたのは1台約30万円するブレイルメモと呼ばれる携帯タイプの点字機械30台を、カトマンドウの諸団体に寄贈して下さったこと。今後メンテナンスなどのフォローアップは、NBSAの仕事になりそうです。NBSAはイニシアティブをとることのできる老舗の視覚障がい者団体なのですね。今後も他の視覚障がい者団体と、共に手を携え頑張っていきたいと思っています。

### 役員改正のお知らせ 2013年6月

2年以上大変熱心に、NBSAの運営に貢献した、ピソ・アディカリ氏が任期を満了し、オム プラカス氏が、新会長として選任されました。オムさんはNBSAの初代会長です。今後とも頑張ってもらいたいと思います。

## 9月の定例活動報告

オーディオライブラリ事業とトーキングブックの作成。ある女性の一生を綴った小説1冊と、大学レベルの教材を手がけていました。なぜかネパールの人はこの手の苦労話が好きなようで、多くの女性に聞いてもらえると思います。大学の教材のほうですが、全文は数百ページにわたります。重要な箇所だけ抜粋してもらえないか交渉中です。

### 点字マガジンの危機

36号作成開始しましたが、点字のタイピストが一身上の都合でやめてしまいました。ネパール唯一の隔月紙が途絶えてしまうかも知れません。若い人にはあまり人気なかったタッチですが、高齢の方々には大変人気があります。さっそくお手伝いして下さる方を募集集しているのですが。

### 9月14日 今年もやりました！恒例のこどもの日クイズ大会

通常9月15日に祝うネパールの子供の日ですが、今年は都合により一日早めに行いました。会場はNBSAが懇意にしているネパール盲人福祉協会。日本の援助を受けて、学童の教科書を作っている大きな団体です。

今年のクイズ大会は、ちょっと趣向を変えました。これまでの大会は、事前に千以上に及ぶ音声台本をこちらで用意しそれを各学校に配っていましたが、今回は事前配布をやめて、出題されるクイズの本の名前だけを連絡しました。学校と教員に少しでも協力を仰ぎたかったからです。交通費とスナック代はNBSAが負担しました。NBSAはケチとブーイングが出たのはサノティミの学校だけで、残念ながら不参加。その他の学校は自費でクイズの本を買い、出場に向けて毎日トレーニングしたそうで、心から嬉しくなりました。

### 10月の定例活動報告

#### オーディオライブラリ事業とトーキングブックの作成

取り立てて急を要する朗読の依頼はなかったのですが、これだけは仕上げておきたいとボランティアさんが頑張ってくれて、教科書は仕上げました。特にえらいなーと思ったのは、女性ボランティアのリーダーのサビットリさんです。まさに、祭日のぎりぎりまで本の編集を続けていました。

彼女いわく「目標を達せなかったら来月すればいい。私はこういうのが好きではありません。」ときっぱり言い切って、本当に実行していました。こんなに責任感の強い人は初めて。

### 点字マガジンの危機

36号の作成を開始しましたが、点字のタイピストだったニルマル君がいきなり辞めてしまったため、作業はいったん中止です。退任の理由は言わず、一身上の都合であったとのこと、まじめによく働いてくれたのに。後任は大学生のスシル・アディカリ君。点字タイプの操作と校正は抜群です。今後期待できそうな学生さんですが、家が事務所から遠いのが心配なところ。ぜひ頑張って長続きしてください。

その他 今度はよいお知らせ NBSAのことをもっと知ってもらおう、そしてボランティア活動をしよう。このような趣旨で、ネパールの一般新聞のコラムに広告を載せてもらいました。さっそくボランティア志願者がNBSAを訪問してくれましたが、大型連休の後に何人の人がまた来てくれるかな？ちょっと疑問です。

さよなら！サビナさん。6年以上NBSAで朗読ボランティアを続けてくれたサビナさんが、韓国に渡ることになりました。彼女は学生時代からハングル語を勉強していて、韓国で働きながら理容師技術を学びたい夢がありました。とても静かな人でしたが、誰にでも好かれていたサビナさん、あなたはボランティアのお手本でしたね。ありがとうございました。韓国でああなたの夢が実ることを祈っています。

## 11月の定例活動報告

### オーディオライブラリ事業とトーキングブックの作成

ネパールで一番重要な祭りダサインとティハールが終わり仕事に専念できると思っていましたが、憲法制定に向けての選挙戦が過激なデモに変わり、残念ながらそれも叶いませんでした。ただ一冊、仕上げられたのは、身体に障がいを持たされて生まれ、それを克服し公務員になった女性の半生を描いた小説の音訳です。政治的に不安定な時だからこそ、このような生きることを尊ぶ小説を、視覚障がい者のみならず多くの人々に聞いてもらい、読んでもらいたいと願っています。

点字マガジン作成 点字による隔月刊行誌の作成。ただ今休刊中。

### 「援とは何か」ネパールで考えたこと 川口 映子氏

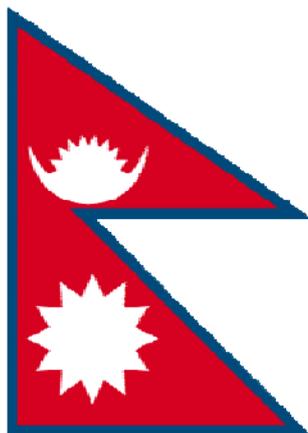
私は、平成25年11月に4回目のネパール訪問をした。小学4年生の時に読んだ岩村昇医師に憧れ、看護師、その後助産師となり、現在は鳥取市内の産婦人科に勤めている。助産師という仕事は、生命の誕生に立ち会うという喜びも大きいですが、二つの生命がかかっているため、分娩介助は、毎回緊張の連続である。ご存じのように我が国の乳幼児死亡率、妊産婦死亡率の低さは、世界の中でもトップクラスである。その理由の一つにお産に立ち会う医療従事者が新生児蘇生法の知識や技術を持ち、日々向上のための努力を継続しているのも大きな要因だと思う。私も助産師となって10年目となるが、新生児蘇生法はとても重要であると思い、スキルアップのために研修会に参加して、何度も復習を重ねてきた。今回、私はカトマンズ郊外にある比較的大きな病院において、看護師を対象に講義する機会を得た。事前にどんなことを学びたいかと聞いてもらったところ、何でも良い、内容はお任せするとの返事だった。そこで私は、基本的であるが、非常に重要な新生児蘇生を講義することにした。

基本手技である気道確保、胸骨圧迫(心臓マッサージ)、バッグアンドマスクによる人工呼吸法を日本から持参した新生児人形を用いて紹介をした。赤ちゃんが出生して1分間は、その子の運命を決定する非常に大切な時間(そのためThe Golden Minuteと呼ぶ)である。もし、1分間をもたもたしていれば、たとえ生命は助かっても低酸素脳症を起こし、脳性まひなどの重篤な障害を持ってしまう。

私は、基本的なことを重視して説明した(つもりだった)

しかし、講義のあと、「こんなこと、知っている」「新しい情報が何も得られなかった」とつまらない

という声を聞いた。私は、落胆した。その中で、一人の看護師が近寄って来て「今日の講義は、本当に重要な内容だったわ」と私にお礼を言った。私は、考えた。いくら素晴らしい知識や技術を持っていても私の語学力では、それらが十分伝わらなかったのか。現地の看護師の技術が十分だとは、実際に彼らの手技を見て到底思えなかった。そんな手技では、助かる命も助からないよ(私の心の叫び)と思った。本当の支援とは何か。それから、私は帰国して岩村先生の著書を何度も読み返しなが、自問自答を繰り返していた。



## ネパールでの狂犬病ワクチン製造体験記

前 JICA シニアボランティア：井出 誠彌 (2013.10.31 記)

小生は JICA(国際協力機構)から 2002 年 5 月に専門家として 3 ヶ月間の予定でネパールに派遣された。狂犬病ワクチンを組織培養で製造することが目的であった。日本では狂犬病の発生は無いが、ネパールはもとよりアジア諸国等では狂犬病は今でも毎年発生があり、最も怖い病気の一つである。

ワクチン製造所はカトマンズ市内にあり、構内には動物病院、狂犬病診断施設等が併設されていた。3 ヶ月では結局何も出来なかったが、現地の様子(現地の人々のワクチン製造技術のレベルや設備等)がわかったのが収穫であった。

2003 年 4 月に、シニアボランティアとして再びネパールに行くことになった。今回は 2 年間であった。この時に本会の会長の渥美資子さんと一緒になった。

狂犬病ワクチンには動物用と人用とがある。動物用ワクチンの製造に絞り、仕事を進めて行くことにした。しかし、細胞が増殖しなかったり、細胞を培養している瓶に雑菌が混入したり、思うように仕事が進まなかった。

“お前は日本でワクチンを製造した事があるのか”、と言われてもしょうがない状況が続いた。それでも、現地の人達は日本の技術を高く評価しており、小生の方針についてきてくれた。しばらくして、ようやく細胞が増殖するようになった。



写真：無菌作業中の Dr. Dahal (中央) と Mr. Serilam (左側)

ネパールは政情が不安定で、外出禁止令が出たり、大規模なデモがあったり、ガソリンの供給が激減し、ガソリンスタンドに長蛇の行列が出来たりした。停電も頻繁にあった。一日に 2 時間～4 時間程度の時には、蓄電池で何とか対応できたが、8 時間位になると、対応方法が無く、全くお手上げになってしまった。

このような障害にめげずに現地の人達はワクチン製造に前向きな姿勢で取り組んでくれた。

2005 年 3 月で任期が切れる予定であったが、1 年間延長になった。奇しくも渥美さんも 1 年延長になった。今思うと不思議な縁である。

2005 年 12 月に製造許可があり、2006 年早々に 1ml の瓶で 5,100 本の第 1 ロットを出荷した。これは犬 5,100 頭分である。

ネパールには飼い犬と放浪犬をあわせて 200 万頭位いると言われている。製造量は極く少ないが、少しずつ増やしていこうと考えている。

人用ワクチンの製造も動物用ワクチンのそれと並行して行ってきたが、任期がきてしまったのは残念であった。小生が帰国後も、現地の人達は動物用ワクチンを製造しながら、人用ワクチンも製造に向かって作業している。渥美さんは障がい者の支援をしていた。その活動の一環としてバザーや演芸大会があったが、小生も参加した。演芸大会では障がい者が生き生きと歌ったり、踊ったりしていた。まるで“私たちも生きていますぞ”と力いっぱい訴えているようだった。今でもその光景が忘れられない。

## 制憲議会選挙の経過と結果

谷川昌幸

制憲議会選挙をカトマンズで見学した。ネパールの選挙については、本やネット情報などである程度知っていたが、現地で実際に見聞きすると、日本との違いに驚くことが少なくなかった。

### (1)選挙の概要(12月15日現在)

- ・投票日：2013年11月19日
- ・議員定数：601（小選挙区制240，比例制335，内閣指名26）
- ・政党数：選管登録130(小選挙区制120，比例制122)
- ・立候補者数：小選挙区制6,126人，比例制10,709人
- ・投票率：小選挙区制78.34%，比例制79.82%
- ・選挙実施要員：217,456人　　・選挙実施経費：48億4千万ルピー(概算)
- ・選挙監視団：内外49組織，30,667人
- ・議席獲得政党数：小選挙区制10，比例制30
- ・政党別獲得議席数： कांग्रेस党196，統一共産党175，マオイスト80，国民民主党ネパール24，マデシ権利フォーラム14，国民民主党13，他73

### (2)厳戒・監視下の選挙

この選挙には、バイディア派中心の33党連合が反対しており、11月11日バンダ(ゼネスト)、12-19日交通ストを宣言、実力による投票阻止を図った。バスやタクシーに火焰ビンが投入され、あちこちで爆発が起こった。私自身、18日夕方、キルティブルの滞在ホテルで2回、近くからの大きな爆発音を聞き、恐怖に身がすくむ思いであった。

こうした不穏な状況のため、選挙は厳重な警戒と監視の下で行われた。各政党の選挙集会や行進には武装警官が終始同行し、投票所では投票用紙記入台や投票箱の横に警官が小銃を構えて立ち警戒していた。

また、いたるところに選挙監視団が派遣されていた。私は政党の集会や行進に一観察者として参加していたにすぎないが、その私ですら、外からの目立つので特に西洋人の監視の視線を痛いほど感じ、卑屈な鬱屈した気分になるのを禁じえなかった。

### (3)高投票率と大政党の勝利

それでも、投票は11月19日、大混乱もなく無事実施された。しかも、選挙妨害と政党不信のため選挙戦は低調であったにもかかわらず、驚くべきことに、投票率は80%に迫り、大勝したのは既成大政党の कांग्रेस党と統一共産党であった。マオイストは惨敗。女性当選者は小選挙区制ではわずか10人、マデシ系も大幅減少した。比例制当選者割当てと内閣指名により多少は調整されるだろうが、被差別諸集団の後退は避けられそうにない。

写真右 投票前日(キルティブル)



#### (4)新憲法制定の可能性

कांग्रेस党と統一共産党が大勝した結果、両党を中心とする保守中道連合が成立すれば、新憲法の制定は難しくない。しかし、その場合、「包摂参加民主主義」の後退は避けられず、そうなれば、マオイストや被差別諸集団は再び反体制実力闘争に向かうであろう。ネパールにおいても、「中庸にして過甚ならず」は難しい政治課題である。



写真左：投票所(キルティプル)



写真右：選挙監視団(キルティプル)

谷川先生、投稿していただき、ありがとうございました。

### 私が好きな街角



ネパールで 程よく日本語が通用する街といえばパタン(ラリトプル)が筆頭でしょう。

住民は、仏具の製造や金銀の商いを生業にする仏教と人が多く、たくさんの仏像が日本に、そして日本人に売られて行きます。そこで日本語を習う人も多く、こんなことわざがあるそうです。カトマンドゥのタメル地区で働く人たちは酔っ払うと英語で喧嘩する、パタンの仏具屋が喧嘩すると日本語で喧嘩すると。かなり大げさな比喻ですが、パタンの人々は日本人に好感を持っているようです。当然日本語学校も多く、将来は日本語を習得し日本にで商売をしたいと考えている人が多いそう

です。

パタンは礼暦 299 年デーヴァ王により設立されたと言われている古都で、中世にはマッラ王朝によりさらに栄えたそうです。私が好きなパタンの街角は、古式豊かな王宮広場。そして人々が行きかう街並み。そこには子供のはしゃぐ声が聞こえ、公共井戸で洗濯をしたり、水を汲みに来た女たちのコミュニケーション

の場でもあります。彼女たちのおしゃべり、挨拶は「もう、ご飯たべたかね～」だけなんです。でも私には家族のみんな元気になっているか？と相手の安否を確認している、温かい挨拶のように思えます。



#### 事務局だより

ネパールの視覚障がい者を支える会の事務局が柏市に移って2年目以上に経ちました。これまではバザーやお祭りの時にネパール製品を販売し、ネパールの視覚障がい者を支える会の運営資金をカンパしてきましたが、これからポコアポコの工房にもネパール製品を置くことにしました。

ヒマラヤ山脈原産の「岩塩」とても美味しいと評判です。ぜひ一度ご賞味ください。

千葉県柏市 松葉町 6-8- ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

epal, Nepal Blind, Support Association(NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-444-6234

日本の窓口:千葉県柏市 松葉町 6-8-1 ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

NBSA: HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp>

維持会費:個人会員年間 6,000 円、協力会員年間 3,000 円/法人会員年間 15,000 円

振込先:口座記号番号振込み番号0190-7-762775(ネパールの視覚障害者を支える会)

#### ネットニュースのご紹介

毎月1回配信のNBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュース政治状況を掲載しています。ネパールへの渡航状況を知る上で便利。

ホームページ、NBSA:<http://NBSA.sakura.ne.jp/> をご覧ください。

毎月の配信をご希望の方は直接 [nbsa@mail.com.np](mailto:nbsa@mail.com.np) にお申し込みください。